

「病院・施設」から「在宅介護・在宅医療」へと
いう流れが高まるなか、住み慣れた地域や自宅で
最期のときを迎えられるようにするためには、
医療と介護サービスが一体的に提供される仕組
み「地域包括ケアシステム」が必要です。

松阪市では、毎年11月に松阪市民病院と協働
し、在宅介護を学ぶ教室を開催しています。講
師を務める訪問看護ステーションの市川千恵子
師長と参加者に話を聞きました。



冊子
『大切な人の最期を
看取ることについて』

「看取り」を自分事ととらえ、向き合うために
一度読んでみませんか。ご希望の方は、
高齢者支援課まで連絡してください。

インタビュー
「在宅介護に必要なこと」



松阪市民病院
訪問看護ステーション
市川千恵子 師長

**なぜ、在宅介護・医療が
求められているのでしょうか。**

がんや認知症など治癒が困難な病気
は、退院してからも継続的な医療や介護
が必要です。在宅で療養していても、家庭
や地域の中では役割があります。患者で
はなく、父、母、おじいちゃん、おばあちゃ
んなど、役割を持つことが生活の質を上
げるために一番重要ではないでしょうか。

**病気になつても
自宅で生活していくためには
何が必要ですか。**

自宅で療養することは難しいという思
いが誰にでもあるのは事実ですが、在宅
介護や医療は、本人の「自宅にいたい」と
いう気持ちの上になり立つと思います。ま
ずは、本人の希望を家族や医療、介護に
携わる人が一緒に考え、本人や家族の心構
えができるように関わることが大切だと
感じます。

**そのためには
どうすればいいのでしょうか。**

希望の環境と現実とのギャップがあるか
もしれませんが、医師、看護師、ケアマネ
ジャーなど、みんなが「その人の希望する
在宅療養生活、最期を支える」という目
標に向かってどうしていけばいいか、どんな
治療が必要なのかを考え、サポートする
ことよって在宅介護・在宅医療の実現に
近づいていくと思います。一人ひとりが真剣
に医療・介護そして自分の未来について考
えていくことが重要ではないでしょうか。

介護教室参加者の声

60代女性

義母の介護が必要にな
り、介護術を学んでみよう
と家族と参加しました。
実際、介護を始めると分
からないことがたくさんあ
り、知らないことを学べ、と
ても良かったです。最終回
のテーマの「看取り」につい
ても、家族と一緒に聞いて
もらいたくて主人と参加
しました。

80代女性

教わった口腔ケアを実
践したところ、よくでき
ていた口内炎がすっかりな
くなりました。子どもた
ちが遠方に住んでいるの
で、少し不安もあります
が、家が好きな夫のため
に訪問介護などのサービ
スをつましく利用しながら
出来るだけ自宅での生活
を続けたいと思います。

